

日本声楽発声学会

2019 年度 夏季研修会

日 時：令和元年（2019 年）8 月 19 日（月）・20 日（火）

8 月 19 日（月）－ 講座開始：12：55 ～ 17：20（受付開始：12：30）

8 月 20 日（火）－ 講座開始：10：00 ～ 終了時刻：15：30（受付開始：9：30）

場 所：日本福音ルーテル東京教会（JR 新大久保駅下車徒歩 5 分）

東京都新宿区大久保 1-14-14（会場への電話はご遠慮ください）

（お願い）

- ① 携帯電話等音の出るものは電源をお切りください。
- ② 録音、録画、写真撮影は固くお断りいたします。

（なお、本学会では記録用として録音録画はしますが、それ以外は個人のプライバシー保護のため、厳禁といたします。違反の場合は機材等を学会でお預かりすることがあります。）

ご挨拶

向暑の砌、皆さまにはますますご健勝のことと推察いたします。

今年も下記の要領で、2019年度夏季研修会を開催する運びとなりました。全国からお集まり下さいます皆さま方に、より充実した研究内容のご提供が出来ますようにと、日本を代表する作曲家、音楽学者、それに音声生理学者の先生方に講師をお願いいたしました。また2日目の「歌の集い」には、一般の会員の方々と共に川村英司氏が参加して下さいます。どうぞ2日間共、心からお楽しみいただけますように。

会長 川上 勝功

プログラム

総合同会 佐々木 正利

第1日 8月19日(月)

開会挨拶 川上 勝功 (12:55 ~ 13:00)

◎ A講座 現代日本の作曲家シリーズ講座VI

13:00~15:00

司会 豊田 喜代美

講演テーマ：日本語の歌

会場 2階礼拝堂

講師 間宮 芳生 (まみや みちお)

概要

「歌手の仕事は言葉の意味を感情をのせて伝えること」であり、声を聴かせるということとは時限が異なるものであると考えています。今回の講演では、12世紀からこれまでの歌の流れを実演の音源及び生演奏を聴きながらお話ししてまいります。

ミサ全体を最初に完成させたといわれる Guillaume de Machant(1300-1377)のミサ曲、静岡児童合唱団と僧侶による真言声明・四家法要「唄(ぼり)」、Carmen McRAE(カルメン・マクレ)のジャズボーカルなど、このように多様な歌の中にあって、共通する声の響きというものが鮮明に浮かび上がってきます。特にバロック期の歌には、歌うことの本質が示されており、「言葉の意味を感情をのせて伝える」には、どのような声で、どのように歌えば良いのかに気づかせてくれます。ここに、ノンヴィブラートが歌の基本であることの確信を得ることができます。コロコロとした節回しはノンヴィブラートであればこそ生きてくるものであります。また、男女のかけあいの民謡の音源の聴取からは、声域は存在しないことを知ることができると思います。そしてオペラ歌唱時の日本語の歌詞の扱いについては「たくさんの言葉を一度に入れてしまう手法」で、歌詞が鮮明に歌われる例を生演奏で聴いて頂きます。そのモデルとなる作品はオペラ「ニホンザル スキトオリメ」の《くすの木のアリア》です。その他の間宮芳生作品からは、日本民謡とヨアヒム・リングルナッツの詩に作曲した作品などを聴いていただきます。

○演奏曲目:間宮芳生作品 ※変更になる場合がございます

- ・オペラ「ニホンザル スキトオリメ」より 《くすの木のアリア》
- ・「日本民謡集」より
朝草刈唄/青森県民謡
銭吹唄/青森県民謡
まいまい/富山県民謡
草切節/鹿児島県民謡
雨乞唄/岐阜県民謡
- ・「間宮芳生歌曲集」より
子供のお祈りその三 ヨアヒム・リングルナッツ:詩
空の向こうがわ 友竹 辰:詩
やまのこもりうた ヨアヒム・リングルナッツ:詩
- ・「セレナード」よりIII

○演奏者:豊田 喜代美(ソプラノ) 加賀 清孝(バリトン) 小坂 圭太(ピアノ)

プロフィール

間宮 芳生

1929年北海道旭川生まれ。幼少期より音楽の才を表し、中学校卒業後上京。1952年東京音楽学校（現東京藝術大学音楽学部）卒業。以来今日まで日本を代表する作曲家として作曲活動が続けている。作品は多岐にわたり、オーケストラ作品、室内楽曲、多数のピアノ独奏曲、合唱曲、オペラ、また各種邦楽器のための作品などがある。1974年、NHK委嘱により、歌舞伎十八番のひとつ、「鳴神」に基づいた自作テキストによるオペラ「鳴神」を作曲。これは、歌手がオーケストラをバックに歌い、文楽の人形が演じる形で作られ、ザルツブルク・テレビオペラ賞に参加、金賞を得た。その他、オーケストラ作品による尾高賞など受賞多数。東京音楽学校卒業後、日本各地の伝承民謡を研究、それらの中に多様・多彩な姿で見つかる、カケ声、ハヤシコトバに魅せられ、主として、それらの研究にもとづく合唱曲を数多く作曲した。中でも17作に及ぶ「合唱のためのコンポジション」、24曲から成る独唱とピアノのための「日本民謡集」はことに重要。

創作のかたわら、1972～90年、東京藝術大学作曲科講師、1980年より桐朋学園大学講師、2000年～05年同大学特任教授。1977年と1981年には各2ヶ月、カナダ西オンタリオ大学に客員教授として招かれ、作曲、音楽理論、ピアノ教授法、管弦楽法を教えた。また、クフモ音楽祭（フィンランド）にテーマ作曲家として招かれた他、ハンガリー、ブルガリア、アメリカ、ロシア等、海外の音楽祭に参加するなどの活動も多かった。その他では、1995年より、この年オープンした静岡音楽館A0Iの初代芸術監督を10年務め、その間の内外の音楽家を招いて、200余りの多彩なプログラムの企画・実行にあたった。他に、スタジオジブリの作品「火垂るの墓」他の映画音楽を作曲している。

◎ B講座

15:20～17:20

司会 佐々木 正利

講演テーマ 演奏に生命を与える<音楽修辞学>

会場 2階礼拝堂

講師 淡野 弓子 (たんの ゆみこ)

概要

ルネサンス、バロック期の音楽は、「音楽修辞学」を基盤とする作曲法によって構築されているものが数多く、特に宗教音楽に用いられた象徴、隠喩といった表現方法は、聖書に書かれたこの世の状況や人間の心、異次元からの霊的メッセージなど多岐にわたる事象を音楽化することに成功した。

当講座では特に17世紀のH. シュッツ (1585-1672) と18世紀のJ. S. バッハ (1685-1750) の作品から修辞学的表現の際立った音型や数の象徴を示す実例を考察することによって私たちの発声と演奏スタイルはどのようなものに導かれて行くのかを考えたい。(ここで取り上げた作品の幾つかは翌20日午後の「歌の集い」で演奏される予定です。)

プロフィール

淡野 弓子

東京藝術大学を経てドイツ・ヘアフォルト教会音楽大学に学ぶ。1968年「ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京」を設立し2008年まで常任指揮者としてシュッツ全作品ほか中世から現代に至る多くの主要合唱作品を紹介。1984年音楽グループ「ムシカ・ポエティカ (音楽詩学)」を組織し、音楽修辞学の研究・演奏に従事。2018年より朝日カルチャーセンター (立川/横浜) においてシュッツ、バッハに関する講座を担当。師: W. エーマン (指揮)、A. ギーベル、E. マンヨン (声楽)。CD: 「H. シュッツの音楽」Vol. 1-4 他。著書: 平凡社新書『バッハの秘密』。

第2日 8月20日(火)

◎ C講座 音声生理学講座

10:00 ~ 12:00

司会 竹田 数章

演題: 歌唱の生理機構と声帯のメンテナンス

会場: 1階会議室

講師: 平野 滋 (ひらの しげる)

概要

声は声帯振動によって発生し、動物においても一定のコミュニケーションツールとして用いられるが、とりわけヒトにおいては個人や人格の表現として、また様々な声のアートとして洗練化し発達してきたと考えられる。歌唱は声のアートの至高であるが、これを支えるメカニズムとしては声帯振動、呼気サポート、内外喉頭筋の作用、共鳴腔の働きなどが明らかにされてきた。ヒトの声帯は他の動物に見られない特徴的な粘膜層構造を呈しており、これが幅広

いレンジの発声を可能にしているとされる。呼吸サポートは安定した声帯振動維持に必要不可欠であり、とりわけ声楽においては必須の機構である。1対のみの声帯を自由自在な弦とするのには内喉頭筋の働きが重要であり、そのキャパシティーによって各個の歌唱能力が決まる部分がある。共鳴腔は声帯振動のキャパシティーを高めるとともに singer's formant に代表される響き形成に重要な役割を演じるが、その調節には外喉頭筋が深く関わってくる。このように多くの機能が集合して最終的にアートとしての歌唱が実現されるが、これらの土台として体力、姿勢、精神力などの充実が重要であるのは言うまでもない。歌唱においては如何にパフォーマンスを高めるかはアートとしての重要な課題であるが、一方、いかにパフォーマンスを維持するかは歌手にとって歌手生命を維持するうえでも最大の問題である。声帯は1秒間に数百回振動する他に類をみない高速振動体であり、それを担うのはわずか1mmの声帯粘膜である。この粘膜は炎症、外傷により容易に傷つき、優れた回復力を持つものの、積年のダメージが声帯粘膜の劣化を招く。これを維持するためにはいくつかの方策がエビデンスとともに出てきている。現在我々が推奨する事項は、

(1) 喉頭の保湿、(2) 喉頭の負の環境因子の除去、(3) 適度な声帯への刺激、(4) 活性酸素の予防になる。過剰発声や加齢にともない声帯は傷みやすくなるため、常日頃からの加湿が重要であり、そのためには1日1.5Lの水分摂取が推奨される。声帯周辺の炎症は常に予防する必要がある、特に胃酸逆流とアレルギー性炎症は近年増加傾向にあり、歌手においては深刻な問題となるため、これらを予防する方法が必要とされる。声帯の維持には適度な振動とストレッチの刺激が必要である。歌唱者の声帯は長持ちするという事はカナダの臨床研究で明らかにされたが、さらに積極的に声帯を維持するための発声訓練も推奨されている。炎症や加齢に伴う活性酸素は組織劣化の一番の問題であり、我々は声帯の損傷や加齢によって活性酸素が急増することを示した。強力な抗酸化剤を投与することでこれら活性酸素による声帯損傷を最小限に食い止めることが可能と考える。現在、声楽家を対象にした抗酸化剤プロジェクトが進行中である。

プロフィール

平野 滋

京都大学医学部卒業 京都大学大学院医学研究耳鼻咽喉科・頭頸部外科准教授を経て平成28年京都府立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授

平成2年 京都大学医学部卒業

平成10年 京都大学大学院医学研究科修了 医学博士号取得、

平成10年 京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科助手

平成11年 UCLA 耳鼻咽喉科・頭頸部外科研究員

平成13年 ウィスコンシン大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科研究員

平成15年 京都医療センター気管食道科医長

平成17年 京都大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師

平成27年 京都大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科 准教授

平成28年 京都府立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授

専門：音声医学、音声外科、声帯のメンテナンスと再生医療

主な役職：日本耳鼻咽喉科学会代議員、日本喉頭科学会理事、日本気管食道科学会理事、日本音声言語医学会評議員、The Voice Foundation 理事、International Association of Phonosurgery 幹事、Advances of quantitative laryngology voice and speech research (AQL)国際理事。

◎ D講座 「歌の集い」 演奏会

開場 12:30 13:00 開演 ~ 15:30 終演予定

会場 2階礼拝堂 入場料 2,000円

司会 豊田 喜代美

○ 鈴木 慎一郎 Shinichiro SUZUKI バリトン 林 翔子 Shoko Hayashi ピアノ

・夏の思い出：作詞：江間章子/作曲：中田喜直 ・とんび：作詞：葛原しげる/作曲：梁田貞 他

○ 西浦 美佐子 Misako NISHIURA ソプラノ 遠藤 志葉 Yukiyo ENDO ピアノ

・Vocalise Op.34, No.14/ヴォカリーゼ：S.ラフマニノフ作曲 他

○ 金谷 めぐみ Megumi Kanaya ソプラノ 中島 裕子 Yuko Nakajima ピアノ

・Je dis que rien ne m'épouvante/不安にさせるものなどない、歌劇《カルメン》よりミカエラのアリア：G.ビゼー作曲 他

○ 林 いのり Inori HAYASHI ソプラノ 田丸 結菜 Yuna TAMARU ピアノ

・Sul fil d'un soffio etesio/季節風の息吹にのって、歌劇《ファルスタッフ》よりナンネッタのアリア：G.ヴェルディ作曲 他

○ 淡野 弓子 Yumiko TANNO ソプラノ 菅 哲也 Tetsuya KAN オルガン 淡野 太郎 Taro TANNO 指揮

共演:シュッツ合唱団

- ・《Kleine geistliche Konzerte (小宗教コンチェルト集)》SWV282よりNr.1 Eile, mich, Gott, zuerretten (神よ、速やかに私を助け出してください) ダヴィデの詩編70;2-6 M.ルターによるドイツ語訳.H.シュッツ作曲 他

■ レクチャー・演奏

○ 講師 : 川村 英司 Eishi KAWAMURA バリトン 東 由輝子 Yukiko HIGASHI ピアノ

・タイトル: 自然であること! 不自然にならないこと!

・Schumann、Hoven : Du bist wie eine Blume (H. Heine)

作曲家がいかにか原作の詩に手を加えて詩の意図を変えて作曲したか、変えない場合にはどのような内容表現になるのでしょうか。

・Brahms : Nicht mehr zu dir zu gehen (Daumer), Botschaft (Daumer)

歌の表現をすることとはどのようなことなのか? 個性的な表現は重要だと思います。

・Wolf : Und willst du deinen Liebsten sterben sehen(aus Italienischen Liederbuch von Heyse)

ヴォルフが作曲した中で最も美しいとされるメロディーを演奏する際、強調する言葉の長さは同じ八部音符でも微妙に長さを違えて歌うのです。

・Schubert : An die Musik (Schober)

シューベルトの歌曲の中でも最も有名な次の曲をかつて私(川村英司)は最も得意とし折々に歌ってきました。

※ 演奏曲目、出演者プロフィール、曲目解説は、当日お配りするプログラムをご参照くださいませ。

2019年夏季研修会参加要領

◎ A、B、C 講座の聴講料 (3 講座すべて事前申込した場合は料金が 2 割引になります。)

◎ D 講座 第 13 回「歌の集い」 入場料 2,000 円 (会員種別にかかわらず同一)

◎ A、B、C 講座の聴講および、D 講座「歌の集い」の申込方法

※ 事前振込の締切 8 月 14 日 (火) 迄 (それ以降は、当日受付にて下記の当日料金をお支払いください。)

※ 聴講のお申込み方法

- ・ゆうちょ銀行の払込取扱票(青色)にて 00170-0-119920 (加入者名: 日本声楽発声学会) へ、見合った金額をお振込みください(振込料は各自ご負担ください)。
- ・通信欄に、①どの講座(A、B、C)を聴講されるか、およびD講座「歌の集い」への入場を希望するかどうか、②会員種別(「正会員」、「学生正会員」、「臨時会員」、「高校生以下」)のどこに属するか、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。聴講料の払込をもって参加の申込とさせていただきます。

	正会員	学生正会員	臨時会員	高校生以下
1 講座のみ	2,000 円	1,000 円	3,000 円	500 円
2 講座のみ	4,000 円	2,000 円	6,000 円	1,000 円
3 講座全て	4,800 円	2,400 円	7,200 円	1,200 円
当日料金	6,000 円	3,000 円	9,000 円	1,500 円

日本声楽発声学会事務局 (担当: 佐々木 徹) 〒154-0002 東京都世田谷区下馬 3-14-4
 E-mail: info@jars-voice.org Tel/Fax 03-6804-0626
 日本声楽発声学会 Web サイト <http://www.jars-voice.org/>
 郵便振替口座 00170-0-119920 加入者名: 日本声楽発声学会

日本声楽発声学会
 2019 年度夏季研修会 2019 年(令和元年)7 月 20 日発行
 発行者: 日本声楽発声学会 編集者: 豊田 喜代美
 印刷所: よしみ工業株式会社東京事務所 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 本郷宮田ビル 3F